

特許紹介

第28巻第1號 昭和17年1月

防空防火用途塗材の製造法

(特許第14548号 發明者)
(特許権者) 安富正秀

黒色にして約10%内外の炭素を含有せる極微粉状珪酸質物即ち所謂黒土又は工華にベントナイトと燒明礬とを適當に添加混合して製造するもので、斯くて黒色乃至灰色状の防空色を有する微粉末が得られるを以て、之を其の儘適當の噴霧塗装機を以て物體の表面に塗装して擬装するか、若くはコンクリート等に混合してコンクリートの耐熱性を増大せんとするものである。

轉轍器割出安全装置

(特許第14569号 發明者)
(特許権者) 坂藤直夫

轉轍器に於て轉換挺子取扱の錯誤により、或は列車又は車輛自體が過つて異方向に開通せる脊向轉轍器を進出し或は過送して之を割出したる場合、該轉轍器を自動的に轉換し車輛の通過し終ると同時に轉轍器轉換機構に無理を加ふる事無く凡てを舊態に自動復位せしめんとするものである。

抗打猿槌

(特許第14576号 特許権者 メンク・アンド・ハム・ブロック)
(発せルシヤフト・ミト・ベシユレンクテル・ハフツング)

抗打猿槌に於て作業ピストンの内部に調節ピストンを装入せしめんとする方式に關するもので、構造簡單にして作業輕便なるやう設計したものである。

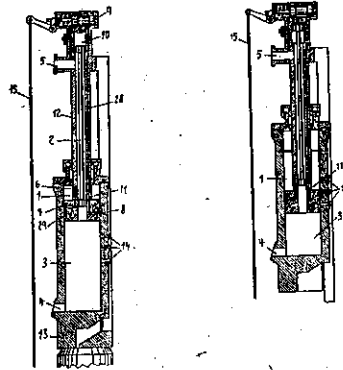
圖-1に就き説明すれば、(1)は猿本體を構成する氣筒であつて其の下部は猿(13)を形成し氣筒内に作業ピストン(20)を適合せしめる。

作業ピストンの杆(12)は中空とし、之に杆(2)にて連結せられる上下2個の調節ピストンを適合させる。驅動媒體たる蒸気は入口(5)より中空ピストン杆(12)内に進入し、上下の調節ピストン間の環室内に充滿する。

上記ピストン杆(12)のT頭には蒸気配給器たる滑弁(9)を嵌裝する。

氣筒が圖-1に示す如く下降位置にある時は、環室内の蒸気はピストン杆(12)に穿設した氣道(6)より氣筒壁に穿つた環溝(7)に至り、更にピストン(20)に穿つた氣道(8)及びピストン杆に穿つた氣道(28)を経て蒸気配給器たる滑弁(9)のD部に進入し、終に上部調節

圖-1. 猿が抗に取架せる最下位置 圖-2. 猿が或程度上昇して反逆運動を始めんとする時



ピストンの上方圓筒室(10)に進入する。此結果として調節ピストンは圖-2に示す位置より圖-1に示す位置に壓下せられる。下部調節ピストンが圖-1に示す如くピストン杆に穿てる孔道(11)を超過すれば、ピストン杆の環室内の蒸気は該孔道より氣筒(1)内に進入し氣筒即猿(13)を上昇せしめる。

隧道内熱處理方法

(特許第14575号 發明者 藤野 榮)
(特許権者) 利根地下工業研究所

高温度にして湧出量の比較的豊富な温泉を不利用地域に開鑿せる1本乃至數本の隧道内の長大なる空間に於て、入浴以外の有効なる工業的生産に利用し得るやうにしたものである。

一實施例に就いて説明すれば、中間に山を隔て、其の兩側に位する(A)及(B)の2地帯間を連通するやうに該山を貫いて隧道を開鑿し、例へば(A)の地帯より温泉が湧出する場合之を該隧道内の底部に沿ひ(B)の地帯に向つて流動するやうに誘導する。又該隧道内の上部には隧道の全長に互り架空索道を無端帶狀に往復するやうに架設し、熱處理を受くべき被處理物を(B)の地帯側より該架空索道によつて(A)の地帯側に移送し更に(A)の側より折返して(B)の側に導出せしめ、此間に加熱乾燥又は蒸煮等を行ふものである。加熱乃至蒸煮を行ふ場合は、隧道の兩端を扉等によつて閉鎖すると共に、温泉蒸気を被處理物に直接觸れしめる。又乾燥のみを行ふ場合には、隧道の兩端を開放して内部に空氣の流通を圖ると共に、温泉は管内を流動せしめ該管の面

よりの放熱を利用するのである。

起倒式防弾室

(特許第 145883 號 發明者)
(特許権者) 田中 綱

爆弾、彈丸其他の爆發による衝撃を受けた時、振搖し又は倒動して抵抗を減殺し、従つて室及室内收容者の損傷を防止し、衝動の止むに従つて直立位置に復帰し安全を保持し得るやうにしたものである。

耐衝撃資材を以て造り重心を低部に位置せしめ側壁と底との連結部を断面弧形ならしめ、出入口及換氣装置を設けた中空構築體で、地面又は床面に固定せず獨等せしめたものである(圖-3)。

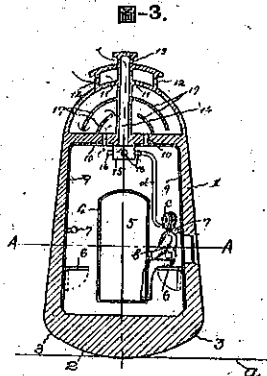


圖-3.

灌水式氣密防空壕

(特許第 145911 號 發明者)
(特許権者) 阿藤一男

地下防空壕の周壁體を木製二重板張とし、其の空隙部に灌水し、其の接水全部材を常に濕潤状態に置き木質細胞の膨脹による水密性を利用した防空壕で、防水防毒効果を擧げしめると共に地下木製構築物の缺點たる腐蝕性を除去せんとするものである(圖-4)。

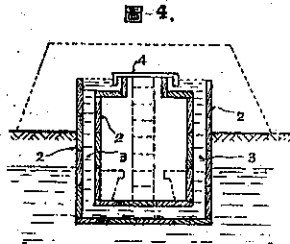


圖-4.

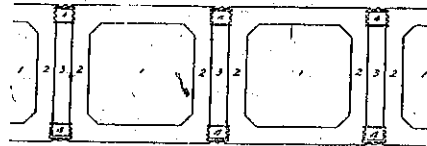
井筒継手工法

(特許第 146037 號 發明者)
(特許権者) 横川末郎

井筒を用ふる締切工法に於て 2 個以上の井筒を近接して埋設する時、夫等の井筒相互間に生ずる間隙を外部と遮断する爲其の間隙の両端に設ける締切壁の施工を爲す工法に關するもので、作業の的確迅速と工費の節減を期したものである。

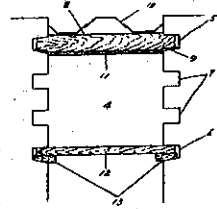
相接する井筒側壁の外側に各々相對する數條の縦溝(5)、(6)及(7)を設け、1組の縦溝(5)の上端に腹起材(8)を嵌設定置し、次に土留用材(10)例へば鐵矢板を其の外側に沿つて建込み、内部の土砂を掘鑿しつゝ漸次土留用材を打込み適當なる間隔毎に逐次腹起材を嵌

圖-5. 大要平面圖



設し、遂に土留用材の打込みが終れば、次に腹起材に其の内側より型板(11)を張り立て縦溝(6)には矢板(12)を落とし込み楔(13)で締付け、

圖-6. 要部平面圖



續いて内部(4)にコンクリートを填充する事に依つて井筒相互の継手を完成せしめるのである(圖-5,6)。
コンクリートが硬化すれば外側の土留用材例へば鐵矢板(10)を全部引抜き、又内側の矢板(12)も楔を弛めて取外し、何れも再使用に供するのである。